

5 わたしたちが孤児だったころ

1 構成

PART I から PART VII で成立している。

その中は 1 ～ 23 の部分に分けられている。行間を空けた箇所では段落に切った。

PART I 1～3

1930年7月24日

ロンドン

PART II 4～9

1931年5月15日

ロンドン

PART III 10～11

1937年4月12日

ロンドン

PART IV 12～13

1937年9月20日

上海 キャヤイ・ホテル

PART V 14～15

1937年9月29日

上海 キャヤイ・ホテル

PART VI 16～22

1937年10月20日

上海 キャヤイ・ホテル

PART VII 23

1958年11月14日

ロンドン

PART I

1030年7月24日

ロンドン

1 1

時 場所 1932年 夏 ロンドン

事件

わたしはケンブリッジ大学を卒業し、伯母がシュロップシャーに戻ってほしいと願うが断る。

時 場所 ケンジントン ベッドフォード・ガーデンズ一四番b

事件

小さなフットを借り、一人になれたことを喜ぶ。

時 場所 ケンジントン通り

事件

のんびり歩いて、学校時代の古い友人ジェームズ・オズボーンと会った。

時 場所 数日後 朝

事件

オズボーンはふいに立ち寄った、彼は労働組合の活動の話、ドイツ哲学の話をした。出版界に入ろうと思っている。コラムを書きたいと言う。私に何か計画はあるだろうと言う。

時 場所 正午頃

事件

彼はピカデリーで昼食のあることを思い出し、今夜はパーティーに来ないかと誘う。コネに恵まれていると言われたことについてしつこく訊いたことを覚えている。彼は上流階級の人達とあちこちでつながっている。

時 場所 霧の深い秋の朝 田舎の宿舎 一四、五歳の頃 五年生

事件

クロスカントリーの競技の記録係で、走者が現れるのを待っていた。『充たされざる者』のライダーが同じことをした。

この時、オズボーンにコネに恵まれていることについて初めて聞いた。ただ知り合いがいるというだけだと答えた。この過ちは長年彼の良心をさいなみ続けた。

時 場所 シュロップシャー

事件

ここにいる伯母以外に私に近い親族はいない。わたしには両親がいない。

時 場所 聖ダンスタン校 寄宿学校

事件

しかるべき時が来たらコネを自分自身で作り上げて進んでいくしかない。イギリスの学校生活に完璧に溶け込んでいた。

時 場所 三年生 一連の盗難事件

事件

学校全体が探偵ごっこに興じていた時でさえ、自制していた。

時 場所 最初の出来事 十四才 誕生日

事件

友人が拡大鏡をプレゼントしてくれた。探偵になる気らしいがその理由だった。この後、事件に使い、これからも携帯するつもりだ。

時 場所 二つ目の出来事 二, 三年後 一五番寝室

事件

グループの一つに近づこうとした時、一人がホームズには背が低すぎると言った。

時 場所 イギリス着何週間 シュロップシャー 伯母の家の近くの入会地

事件

上海時代にアキラとした探偵ごっこのシナリオを演じていた。アキラの分を演じなければならなかった。『充たされざる者』のボリスのごっこ遊びだ。

時 場所 ある朝 小さな屋根裏部屋

事件

階下で伯母が数人の友人としゃべっていた。彼女は自分の内にばかり目を向けることはやめるべきと言った。その日から入会地に行くのをやめ、指摘されないようにした。

時 場所 あの夏の日 ケンジントンのフランス人 オズボーン

事件

彼が帰ってから公園のあたりを歩いた。夜の集まりには大学で参加したものと異なったものと思っていた。探偵達が二、三人含まれていると思った。自分の夢を話せばいいかを練習した。

時 場所 あの夜 チャリングワース・クラブ

事件

財界人や閣僚と一緒にマトロック・スティーヴンソンやチャーリヴィル教授が歓談しているところを期待していたが、急にばかばかしく思えてきた。オズボーンのそばから離れられない。客達は三十才年上だ。

時 場所 別のコーナー

事件

移動した。七十才の銀髪男が、こまっているのかと声をかけてくる。幾人が紹介してやると言う。若い女性に気を取られていると、彼女を美しいと思うかと言う。彼女は私達を見た。ミス・サラ・ヘミングズと教える。助けになるような人をさがしているようだ。何をしたいのかと聞くので、ディテクティブと答える。刑事かと言うので私立探偵の方と答える。彼は、若者は探偵になることを夢みている、世界の悪すべてを独力で根絶しようとしていると言う。サラ・ヘミングズはわたしを無視して、誰かに向かって進んだ。

時 場所 夜遅く ケンジントン タクシー

事件

オズボーンは著名な人物と交わした会話を熱心に話した。指揮者がヘリオット・レイスと婚約していた。コンサートで大失敗をしサラ・ヘミングズは彼を捨てた。

時 場所 ケンブリッジ卒業後 一年間

事件

オズボーンのおかげで社交の場に頻繁に出入りした。臆病を忘れ、社交の場での振舞も自信に満ちたものになった。ロンドンの社交界の一角で居場所を占めるようになった。みんなサラを知っていて社交の場で見かけた。

時 場所 アンソニー・ヘリオット・レイスとの婚約破棄事件

事件

ミス・ヘミングズを非難する者もいたが聡明、複雑、魅力的と表現されていた。彼女はそ
の人が有名でなければ尊敬する価値がないと考えている。

時 場所 チャールズ・ブラウング事件

事件

法廷弁護士ヘンリー・クウィンが失敗してからは彼から離れた。若手閣僚ジェームズ・ビー
ーコンと友情を育んでいると噂がたった。

時 場所 二年後 ある日の午後

事件

彼女を初めて見てからこの日まで一度も言葉を交わしたことはなかった。

1 2

時 場所 ウォルドーフ・ホテル

事件

ジャム付きのスコーンを食べていて、ミス・ヘミングズが一人テーブルについているのに
気がついた。

時 場所 マナリング事件 一月後

事件

有頂天になっていた。公に大勝利をおさめた。新しい世界からの招待が殺到した。ミス・
ヘミングズに近づき、自己紹介する。彼女は冷たいさぐるような目つきで見上げた。マナ
リング事件のことをよんでいるのかも知れないと言うと、調査したのと気のないように話
す。彼女は重要な意味を持っていないかも知れない。

時 場所 自分のテーブル

事件

退散した。腹立ちと意気消沈がこみあげた。

時 場所 それ以後

事件

社交的な場に出ることを少なくし、深く自分の仕事に没頭するようになった。過去の有名な事件を研究し、著名な探偵の経歴を知れば探偵として名声を獲得できる。本物と贋物の区別が分かってきた。両親が旨としていた生き方を思い出し、進むべき道からそれることにかかわらないでおこうと決心した。

2 1

時 場所 ウォルドーフ・ホテルの出会いか一、二ヶ月後

事件

チェンバレン大佐と不意に再会した。

時 場所 雨の午後 チャリングクロス・ロードの書店

事件

『アイヴァンホー』を手に取って見ていた。その時大佐と再会した。大佐はウーターシャーで暮らしている。ロンドンに葬式で出てきた。大人しく貧相だった。経済的に困っていた。これが船の中でわたしの横で泣いていた坊寸だと言う。勇敢な子供だったと言う。

時 場所 上海 朝 大手貿易会社モーガンブルック・アンド・バイアット社

事件

わたしは特別な椅子に座った。ハロルド・アンダーソンは父の上司で友人のように接し伯父のような役割を演じた。彼はチェンバレン大佐を紹介し、イギリスまで完全に送り届けると言う。チェンバレン大佐は、両親がいなくなり、全世界が崩れて行くようだろうと言う。イギリスでは伯母が待っている。わたしは父母を刑事が捜してくれている、イギリスへ行く必要はないと言うと、大佐は言う通りかも知れないがとりあえず行こう、見つかったら迎え人をよこすと答える。

時 場所 ドーチェスターホテル 夜

事件

最後の言葉を覚えていることを話した。大佐は本当に気の毒だった。船に乗れば楽しいことが一杯あると言った。

時 場所 船上

事件

内気で気分やですぐ泣き出したと言った。自分に英雄的な後見人という役割を課していた。

時 場所 あの旅

事件

現実の変化にうまく適応していった。船上での生活、将来の展望に胸を躍らせた。両親のいないのは寂しいが、信頼できる大人はいつでも他にいる。

時 場所 あの朝 汽船の甲板

事件

大佐がいつか戻ってくるか聞くと、戻ってくると思うと答えた。

時 場所 上海八年

事件

大佐はこれ以上いると中国人になってしまう、故郷へ帰ると言う。わたしは腹立てた。両親はあそこにいる、故郷が小さくなっていく。

2 2

時 場所 サウス・オードリー・ストリート あの家

事件

大佐がタクシーに乗り込み別れの挨拶をした時、上機嫌だった。一年後大佐の死を知らされた。彼は記憶の中で相矛盾する姿としてとどまった。

2 3

時 場所 ウォルドーフ・ホテルでの一件の後三、四年

事件

サラ・ヘミングズとの間に何も無い。

時 場所 カクテル・パーティー

事件

サラ・ヘミングズは誰かと話していた。

時 場所 ロジャー・パーカー事件

事件

うまく解決した頃で、彼女は数年前にとった高慢な態度をとるかと思った。意識して彼女の前を通り過ぎた。顔に困惑の表情が浮かんだ。いくつかの難しい事件に取り組んでいた。名の知れた探偵に課される責任の大きさを考えていた。悪を浄化するということが分かってきた。両親がどうしてあのような生き方をするようにいたったか？

時 場所 ノーフォーク

事件

事件を調査中だった。ロンドンに数日前に帰っていた。

時 場所 ケンジントン・ガーデン

事件

被害者が消えた現場周辺の興味深い詳細を考えていた。ターナーが夕食会に招待した。サラ・ヘミングズも来る。クリストファーに会いたがって、数年来の知り合いと言っていた。

時 場所 自分の机

事件

彼の話が気になる。彼の誤解だ。

時 場所 何カ月

事件

同じような話が耳に入ってきた。探し出してみせるとも言っている。

時 場所 オックスフォードシャー シャクトン村

事件

スタッドリー・グレインジ事件の調査をしていると、ミス・ヘミングズが姿を見せせた。

2 4

時 場所 屋敷の敷地内 庭園の池

事件

チャールズ・エマリーの死体が発見された。

石板の一枚を調べていた。殺人が行われた地点に横になっている。そこに、サラ・ヘミングズの姿を見て驚いた。不快の表情を浮かべた。彼女は男の仕事中の姿を見る機会に来たと言う。エマリー家とは親しい友人だと言う。

時 場所 去年の四月 事件

事件

彼女は、エマリー家の人達が去年の四月事件が起こった時、力を借りなかったことは残念だと言う。この言葉は私の興味を刺激した。何と言ったか聞くと、イギリスで一番の踏査力を持つと言った。早く手がかりを拾い上げることが大切だと思っていたと言うので手がかりを拾い上げることに遅過ぎることはないと言った。

時 場所 シャクトン

事件

サラ・ヘミングズは賑やかに市場の立つ村だったが、事件のせいで疑心暗鬼になっていると言う。

時 場所 メレディス基金晩餐会

事件

サラ・ヘミングズはチャールズ・ウルフ、トーマス・ハイロンも来るらしい、一緒に連れて行って頼む。客を連れ出しに行くには遅すぎると言うと、大変有名で、同伴したいと言ったら喜ぶに決まっていると言う。

時 場所 来週水曜夜 クラリッジ・ホテル

事件

ロビーで待っている。楽しみにしていると言う。

3 1

時 場所 チャールズ・エマリーの死

事件

謎を解くのに数日しかかからなかった。エマリーの家族、シャクトン村全体から深く感謝された。

時 場所 昨夜 クラリッジ・ホテル

事件

タクシーから降りた。功績は招待される資格に余りある。出席は妥当だ。招待客は事件の内輪話を聞いたがる。

時 場所 ロビー

事件

サラ・ヘミングズを見つけた。自信にあふれていた。

時 場所 あの日 スタッドリー・グレインジ

事件

彼女との間に何があったか思い出そうとした。エマリー家のためにしたことは本当にすばらしいと称える。サー・ヤシルと話してみたと言う。彼女と腕を組んでいる姿を自分で楽しんだ。

時 場所 数分後

事件

仲良くしゃべった。彼女の腕を外し、もう上に行くと言って離れようとするすとすつかり驚いた。駆け寄り、なんてことするんだと怒った。約束したと言うのに、していないと大階段を上がって行った。

3 2

時 場所 二階 控室

事件

案内され、並んでいる人々の中に入った。芳名帳に記録し戸口の方へ移動した。

時 場所 大広間

事件

サラ・ヘミングズのことを頭から離れなかった。彼女を陥れたのではない。彼女の身に降りかかった屈辱は自らが招いたものだ。

時 場所 十五分 戸口 騒ぎ

事件

虫の知らせを感じて奥に逃げ込みたかった。中心に彼女がいる。客の列を止めてしまった。彼女は行かなきゃいけない、よくある手違いと言った。全員が一瞬身がすくむような気まり悪さを感じた。ミス・ヘミングズと分かり便宜を図ってくれる。彼女に非難されるかも知れないという恐怖に襲われ急いで退散した。

時 場所 十分 舞踏室

事件

主催サー・ヤシル・メドハーストが姿を見せ、ミス・ヘミングズは彼の方へ歩いて行く。彼は背の高い偉大な政治家で、世界情勢に貢献した。国際連盟設立に役割を果たした。

時 場所 宴会場

事件

案内され食事を楽しむ。ミス・ヘミングズを見ている。

時 場所 夕食後 舞踏室 弦楽四重奏

事件

ミス・ヘミングズはわたしに向かって微笑み心底楽しんでいる。グループからグループへわたり歩く。和解しておくかと思ったが遠ざかっていた。

時 場所 三十分後

事件

サー・ヤシル・メドハースト紹介された。彼は宴会で文明の開けた場所にきている、中国で何が起きているか重要だ、日本人は沢山いてあの地で影響力を増していると話した。ヤマシタ・アキラについて尋ねたが知らなかった。ミス・ヘミングズは、バンクスは完全に頼りになるとは限らない、あてにできる人の中では最高と紹介する。できるだけ早く退散した方がいいと判断しその場を後にした。

3 3

時 場所 舞踏室閑散 バルコニー

事件

ミス・ヘミングズがたたずんでいる。頑固でここに入り込むと決めてそうすると言う。そうしてそこまでするか、何が何でも相手を見つけるまで入ろうとするか聞くところは天国だと答えた。有名人と交際があれば価値ある人生が送れると考えているのか尋ねる。彼女は、両親が生きていたら結婚を考える年齢だ、世界に貢献する人を探すために来たと言う。両親を亡くしてかなりになるか聞くとずっといなかったと答える。

時 場所 バルコニー

事件

煙草を吸っている彼女が寂しげに見えた。

PART II

1931年5月15日

ロンドン

4 1

時 場所 六才の頃 上海 家の奥 小山 白い大きな家 アキラの家の隣

事件

わたし、両親、メイ・リー、ほかの使用人と住んでいた。その家はモーガンブルック&バリアット社の社宅だった。新しい社員を泊めた。

時 場所 ある日の午後

事件

二人で劇を演じながら小山を何度も駆け上ったり駆け下りたりした。

時 場所 オールド・チップ

事件

アキラはオールド・チップと言った。オールド・チップと言うと猛然と抵抗した。英語のレッスンを受けるようになって英語に自信を持っていた。

時 場所 租界 比較的安全な圏内

事件

アキラは外に何度も出た。

時 場所 中国人居住区

事件

入ることは禁じられていた。

時 場所 わたしの母

事件

古いタイプでヴィクトリア調風の美人、優美、背筋を伸ばし、目のあたりに優しさをたたえていた。アキラは彼女に特別な畏怖の念を持っていた。

4 2

時 場所 モーガンブルック&バイアット社

事件

社員が来て家の中を歩き回った。検査官が来て検査した。二人で衛生検査官ごっこをした。

時 場所 二階の遊び部屋

事件

検査官と母が口論しているのが聞こえた。検査官会は全従業員の健康と福祉に責任があると言う。使用人は山東省出身で家に入れてはいけないと言う。母はそれだけで追放するのかと反論する。イギリス、モーガンブルック&バイアット社はアヘンをインドから中国に輸出し、中国全土に悲惨と退廃をもたらした。彼は村中の人間がアヘン用パイプの奴隷だと非難する。母は会社になりかわってアヘンのことを話しているのかと追求する。彼は手に負えないと帰る。母は反アヘン運動をしている。中国阿片大龍の大敵と知られ尊敬されている。

時 場所 毎日馬車 通学途中 南京館沿い

事件

家々の戸口で中国人男性がひっくり返っているのを見た。

時 場所 温室 昼食会

事件

母は社の行状に不満を持ち、非キリスト教徒的非イギリス的と考えていると話す。婦人達は耳を傾ける。フィリップおじさんは、いつも出席している。わたしは夜、七才で家にいることが多い。

時 場所 二、三年後 大英博物館

事件

中国のアヘン取引を調査するため、閲覧室で何日か過ごした。母は反アヘン運動の重要人物と思っていたので名前を見つけられずがっかりした。フィリップおじさんの名は何度か出てきた。賞賛すべき清廉潔日の士とあった。

4 3

時 場所 今日午後

事件

サラヘミングズとバスに乗った。フィリップおじさんのこと、アキラのことを話した。

時 場所 レストラン

事件

デビッド・コーベットに昼食に誘われた。グループの中にサラがいた。エマ・キャメロンという若い女性は母親との困った関係について話した。

時 場所 数分後

事件

サラは立ち上がって出て行った。わたしは後を追った。彼女は困った母についてのシンポジウムには貢献できないと言った。母とよくバスに乗った。バスに乗って過ごした。歩くかタクシーで、バスは行きたくないところに連れていかれる気がすると言う。

時 場所 ヘイマーケットの近く 二階のデッキ

事件

バスに乗った。三十分乗っていた。サラは昼食の時より明るくなった。母のことは話題にしない。アキラと二人であるものを盗んだ時の話をすると、名探偵には過去に秘密の犯罪があったと言う。十才の時、アキラの家の使用人の部屋からあるものを盗んだ。そのことが良心を苦しめていると言う。

時 場所 ニュー・オックスフォード・ストリート

事件

バスを降りた。この国に帰ってから過去のことは誰にも話していない。過去の思い出で一杯になる。子供時代や両親の思い出がぼやけ始めた。母には、悪と考えている活動をしている会社から恩恵を受けている事実は苦しみの根源であったに違いない。

母は衛生検査官に対してでなく、父に対して突きつけた。

5 1

時 場所 食堂でのエピソード 午後 図書室

事件

算数の本を開き勉強する。メイ・リー（乳母）は監視した。

時 場所 食堂

事件

父と母は図書室をつきつて食堂に行き、言い争いをした。メイ・リーはどこかに呼ばれた。私は一人取り残された。

時 場所 隣室

事件

乳母はくぐもった声のやりとりをする。もっとはっきり聞きたかった。

時 場所 ドア

事件

行って数秒毎に戻る。メイ・リーがいつ入ってくるかわからないので定規を持って寸法を測っているふりをする。両親は我を忘れて声を荒げる。母は義憤にかられるような調子で共犯者になっている、恥ずかしいと言っている。父は単純なことではないか、フィリップではないと一種異常なあきらめの気持ちでいる。母はおぞましい家の恩恵を受け、どうして良心を安らかに保つことができるのかと言う。こういう状況にほうり込んだメイ・リーに腹が立つ。ドアの側に立って聞き続けたい。遊び部屋に逃げていきたい板ばさみだ。

5 2

時 場所 その後

事件

自分のことをやればいいと思うが、事態を憂慮することもあった。両親は何日も何週間も沈黙を続けた。

5 3

時 場所 アキラの家

事件

うろとは全く違ってで末詳の絵画、装飾品があった。

時 場所 二階擬似和室

事件

二人そこで遊んだ。アキラはカードを使った遊びを教えようとした。

時 場所 父と母

事件

アキラに父と母が話すのをやめることがあるか聞く。彼は父が会社に行っている時、母は話さない。父がトイレに行っている時、母は話しないと答える。君にイギリス人らしさが無い。日本人らしさが無いから父と母は話すのをやめる。自分の振舞に日本人らしさが無いとがっかりして話をやめる。ふさわしくない振舞をしたというならどうして親は叱らないのだと言う。両親は深く落胆して叱る気になれない時だと答える。全世界をつなぎとめているのは子供だと言う。母に聞いてみようかと思ったがみなかった。フィリップおじさんに聞いた。

※アキラの話さないは、相手がない時だ。次に二人いる時、アキラにがっかりしたり、失敗した時話さない。子供は両親を全世界をつなぎとめる。東洋的な考え方だ。

※クリストファーは両親が互いに話すことがない時があり不審に思う。

※ここで両親が口を聞かないのは夫婦喧嘩だからだ、お互いに意識して口を聞かない。子供と独身者には理解できない。

5 4

時 場所 上海 〈聖なる木〉慈善団体

事件

フィリップおじさんは本当のおじさんではない。家族ぐるみの友人だ。

時 場所 おじさんの事務所 教会

事件

魅了されていた、雑然としていた。母は牧師と挨拶をする。いたずらじみたことをさせる。居心地がいい。

時 場所 アキラと話して何日か後

事件

もっとイギリス人らしくなるにはと尋ねた。今以上になりたいのかと聞いた。いろいろな人と一緒に成長していくのは悪くない。戦争も少なくなる。今のような衝突は起こらないと答える。もし撚り糸が切れたらバラバラに散らばると言う、何が起こるか分からない、すべてはばらばらになると答える。おじさんのことを真似ればいいのか聞くと、すごいお世辞だ、榮譽に浴すべきは父だ、正しいやり方が分からなくなったら来なさい、じっくり話し合おう、君なかなかの子供だと言うどれほどフィリップおじさんのことが好きだったか。

6 1

時 場所 同じ夏

事件

アキラは日本人の業績ばかり繰り返す。いらいらする。何かにとりつかれたようだ。日本もイギリスのように立派な国になったらと言う。民族の優秀さを自慢する。

時 場所 秋 日本の学校

事件

長崎の親戚の家に下宿するように手配した。新しい学校生活に胸高鳴らせていた。日本自慢にうんざりする。

時 場所 その日 彼の家

事件

自動車に手を振った。悲しみなど感じなかった。

6 5

時 場所 上海パブリック・スクール

事件

悪ふざけの的になる。アキラほどの親密さは持てない。懐かしく思う。

6 3

時 場所 土曜午前 会議 食堂

事件

母は子供は同席できない、父は出るのは控えた方がいいと言う。母は父を嫌悪している。母はフィリップおじさんと合わせをする。

時 場所 会議終わる 庭

事件

フィリップおじさんと母は話し込む。おじさんは競馬場へ誘う。母はすばらしいと、父は

仕事があるので行けないと答えた。

時 場所 次の瞬間

事件

みんながわたしの方を見た。行くか父と残るか、選択が委ねられている。父は行ってほしくない、苦痛をもたらす。

時 場所 玄関

事件

母は靴を履いて来いと、父は出てきて見送る。

6 4

時 場所 あの夜 夕食

事件

父は港湾労働者の代表が礼を言いに来たと声を立てて笑い、母はその話はもう聞いたと言った。父はしょんぼりした。自分のことをこんな風に話すのが父らしくない。

時 場所 ある日の午後 パブリックガーデン・ブラスバンドの演奏

事件

母と見ていた。父は会社も自分が後に引かない人間だと知っていると言い、母は聞こえた様子を見せなかった。

時 場所 野外音楽室 満席 その日の午後 秋

事件

人垣の外で子供が遊んでいるところに行っていいか父に尋ねた。父はお母さんは成功した、お父さんを立派な男にした、お父さんに対しても厳しかった、おかげで強い人間になったと言った。母が聞いたら怒るだろう。

時 場所 四歳か五歳の頃

事件

当時九歳だったが消えかけている記憶だった。

6 5

時 場所 父の書斎 最上階 一八八〇年代の絵 会社所有

事件

普段立ち入り禁止だった、母は聞き耳を立て書斎のドアを開けた。父は机の上につつぶし泣いていた。そんなことはできない、ぼく多くを求めすぎる言った。母は父に平静さを取り戻させるため、小声で何かを言った。父は苦悩にゆがみ、絶望的に頭を振った。そんなことをしたらおしまいだ二度とイギリスへ戻れない、会社がなかったらやっていけない、能力を超えていると言った。母はドアを閉めわたしを追いやった。

時 場所 当時

事件

単に困惑する経験だった。父も泣いたり怒鳴ったりする時があるのだ。父は父に戻ってい

った。

時 場所 冬 隣の私道

事件

メイ・リーはアキラが日本から帰って来ていると言う。アキラの荷物が車から降ろされた。

7 1

時 場所 北四川路学校 夏

事件

アキラは夏からその学校に通う。日本で色々なことがうまくいかなかった。彼は着物の破れたところを調べる。おかしい言動の後に隠れたものが見えてきた。

時 場所 日本 第一日目

事件

みじめで異質だった。生徒、教師、親戚に仲間外れにされた。両親は学期の半ばに連れ戻した。姉エツコは日本を嫌がらない。アキラは上海に帰りたい。

時 場所 帰宅後何カ月

事件

アキラには小さな不幸が次々に起こった。私たちは盗みをした。

7 2

時 場所 上海

事件

リン・チェンは来た当初から一家と居た。老いた使用人だ。黒っぽい長衣、帽子、辮髪姿だ。アキラは彼がそばに来ると警戒した。リン・チェンへの恐怖心をおさえられない。

時 場所 七才 八才

事件

見ただけでは凍りついたようにならない。やっていたことを中断しにやにや笑う。

時 場所 八才

事件

アキラは恐怖心と闘わなければならなかった。箒で掃いている場所まで連れて行かれた。部屋のそばまで行けとしつこく言われた。

時 場所 リン・チェンの部屋

事件

近づかないようにしていた。アキラは怖いのかクリストファーと言って近づいた。おなじことをやった。

時 場所 十才 上海での最後の夜

事件

リン・チェンの部屋に入った。二人でつまらない盗みをした。あのような大きな波紋を呼ぶとは思わなかった。

7 3

時 場所 人月初旬 六日間休暇 杭州 故郷の村

事件

一年前より自信ある人間になった。リン・チェンは帰った。

時 場所 午前中

事件

アキラの母は洋裁をしている。

時 場所 翌日 土曜日

事件

アキラの両親は外出した。

時 場所 リン・チェンの部屋

事件

女中は縫い物をしている。アキラは緊張しドアを開く。

時 場所 こざっぱりした部屋 香の匂い ベッド

事件

アキラはあれだ、水薬だとびんをつかみ胸に押し当てた。部屋から飛び出して走り続けた。

時 場所 翌日の午後 わたしの家

事件

アキラは両親はなにも怪しんでいないと言う。姉のエツコに打ち明けた。四才上で怖がった。使用人が何人も同じことをして消えてしまったと言う。アキラは恐れおののいた。

時 場所 二日後

事件

リン・チェンが戻るまでにびんを返さなければならない。水薬は高価で警察が捜査に来る。

時 場所 その日の午後

事件

リ・チェンは復習をするかも知れない。アキラは突然泣き出した。ばれたらみんなが日本に帰ることになる。日本では絶対暮らしたくない。私はイギリスには絶対帰りたくないと言う。二人で一緒にやろうと提案する。

時 場所 翌日 二階

事件

びんを用意し、女中が居眠りするのを待つ。

7 4

時 場所 翌日

事件

馬車道をうろうろする。

時 場所 午前中の残りの時間

事件

おもちゃの兵隊で遊ぶ。自分がリーダーになる。

時 場所 門 私道 自動車二台

事件

男たち二人が母と話す。父の同僚のシンプソンがいる。母は警察の方で話すことがあると言う。父に何があったのか聞くと、会社に現れなかったと答える。父のことでアキラとの約束に遅れる。

時 場所 三時半

事件

暗い気分だ。男の人達が出来ただけのことはすると言っている。母は父の行方が朝から分からない、夕方までには戻るかもと言う。アキラの家へ行く許可を求めたが、完全に無視された。不機嫌は夜になっても変わらない。父がこんなことになったからだ。アキラに会った時に何と言えればいいか。母は何が起こっても父を誇りに思っていると言う。

8 1

時 場所 父の失踪後数日間

事件

アキラに何を言ったらいいか何も手につかない。窓から隣家の荷物の積み出しに関心を持つ。

時 場所 三。四日過ぎ

事件

アキラは姉の自転車で曲乗りをしている。父が誘拐されたから行けなかったと言うと、ふてくされたことへの恥ずかしさを示した。

8 2

時 場所 二、三日 ある日の午後 勝手口

事件

メイ・リーにいるか尋ねた。リン・チェンの事件を知りたかったが我慢した。

時 場所 アキラの家

事件

自分達で作った物語を演じる。

時 場所 一時間

事件

アキラがクリストファーのお父さんごっこをしようと言う。お父さんを探す探偵ごっこだと言う。わたしが家に来るようになったのは父のことを聞き気遣いと助けになりたい思いからで、感謝の気持ちを表す。

時 場所 二カ月 父の失踪に関する本物の捜査

事件

男性達が母と話す。

時 場所 階段

事件

母は上から降りて来た。肩に手をかけ一緒に降りた。全世界が壊れてしまった気がしているだろう、誘拐されても必ず戻ってくると言う。刑事を信頼しなければ仕方ない。柱にしがみついて何段登れるかをためしていた。

時 場所 数日間

事件

心配しなかった。二人の劇の材料になった。上海の刑事達は捜査し誘拐犯に迫っていく。アキラは父は椅子に縛られていると言う。縛られてなんかいないと反対すると同意する。アキラは父が居心地よくしており、尊厳さを保っていることを保証するように気を配った。二人探偵で素晴らしい式典で終わる。

8 3

時 場所 失踪から一カ月

事件

リン・チェンの薬瓶について聞く。エツコが瓶を返したと言う。彼女は世話好きで、この秘密をばらすと脅した。アキラは姉もあの部屋に行った、同じくらい悪いが言わないと言う。見つかったらイギリスに帰れなければならないのかと尋ねると一度も頭に浮かばなかった。見つからなくてもここで暮らすと答える。アキラはぼくたちはここで暮らす、ずっといつまでもと言う。

8 4

時 場所 失踪後数週間 マナリング事件直後

事件

上海で過ごした頃の歴史的背景について調査する。遠くない将来に調査に乗り出す。

時 場所 数年前 大英博物館

事件

中国におけるアヘン貿易、モーガンブルック&バイアット社について中国に手紙を書いた。

時 場所 上海後三年 《字林西報》 写真 二人の中国人

事件

ワン・クーは三百人の軍隊を率いる軍閥で蒋介石が優勢になると大半を失い、南京にいる。バイアット社と友好関係を確保していた。企業は軍閥の確保を期待していた。

時 場所 ケンジントン・ハイ・ストリート

事件

歩いていた時、あの男の記憶が突然蘇った。

8 5

時 場所 失踪後二、三週間

事件

大勢の見知らぬ人々が入り出りしていた。注意を払わなかった。ワン・クーは最初にやって来た。母は冷静な笑みを浮かべ対応した。フィリップおじさんは親友同士で聞き入れた。

時 場所 階下での騒ぎ

事件

ワン・クーは冷静に歩いて行き二人の男に心配するなど身振りで示した。母は姿を現し、自制心を失い叫んでいた。フィリップおじさんは止めようとした。母は裏切り者、悪魔の手先、助けは受けない、二度と来るなど叫んだ。ワン・クーは平然と聞き車に乗り分かったと微笑んだ。

時 場所 玄関ホール

事件

フィリップおじさんは家の中に入るように母を説いた。可能性のある方法は全て追求しなければならないと言った。

時 場所 客間

事件

母の態度に心乱された。二週間も三週間もしてから、起こった出来事が容易ならざることと認めることができた。失踪した直後に見た人物に違いない。写真の男が我が家を訪れた男達に違いない。両親の居所を探す手助けになるかも知れない。

9 1

時 場所 あの時

事件

フィリップおじさんは母を制止しようとした。声にどこかおかしなところがあった。味方でなく、ワン・クーと親密だ。

時 場所 失踪後何日か

事件

おじさんは崇拜する人物、父の代わりになってくれる特別な人だ。

時 場所 あの日

事件

警戒心を緩めてついて行ったのも無理のないことだ。母のことが心配で見守った。母を目の届かないところに行かせたくなかった。

9 2

時 場所 晴れた風の強い朝 午前半ば

事件

母とフィリップおじさんは階下にいた。おじさんはアコーディオンを買ってあげると誘った。

時 場所 馬車

事件

元どおりに戻り始めている。明るい雰囲気は台無しにはできない。おじさんは手を振ってと言う。

時 場所 大通り 狭い道 南京路 広西路

事件

馬車を降りて歩いて行こうとおじさんは言った。裏通りは激しいと知っていた。今思うと変だと予感がした。

時 場所 石造りのアーチ

事件

ここがどこか分かるかと言うので、あの向こうが九江路と答える。地理を实によく分かっていると言う。珍しいことが起ころうとしている。おじさんはいい子だと肩をつかんだ。傷つけたくなかったと人込みの中に消えた。人込みの中に立ち尽くして大通りの方へ動き出した。

時 場所 元の通り

事件

戻った。息は切れかけていた。助けを求めることなど思い浮かばない。

時 場所 家 門 勝手口

事件

メイ・リーは座ってくすくす笑い泣いている。母はいなくなった。

9 6

時 場所 机の前

事件

座っている。思い出にふける。上海に戻る日のことを考えていた。

時 場所 今日の午後

事件

サラとバスの二階に乗って、ロンドンを回っていた時間も取り返さなければならない。

PART III

1937年4月12日

ロンドン

10 1

時 場所 昨日 二階書斎

事件

伯母の死後、遺産で家を買った。

時 場所 階下

事件

ジェニファーがミス・ギブズと買い物に行って帰った。新学期に必要なものは全部買うか尋ねた。

時 場所 台所

事件

ジェニファーについて話があると言うと、ミス・ギブズは内容を多少予感していた。

10 2

時 場所 三年前 グロスター・ロード

事件

慈善家の未亡人レディ・ビートンからだジェニファーのことを初めて聞いた。彼女は孤児の世話をする慈善団体の財務担当者だ。

時 場所 二年前 コーンウォール沖 船事故

事件

夫婦が溺死し、十才の一人娘が生き残った。祖母とカナダで暮らしているが、イギリスを恋しがった。

時 場所 トロント

事件

組織はその子に救いの手を差し伸べることができるか尋ねると、レディ・ビートンはあの子のために全力を尽くすと答える。手助けがしたい、引き取ってもいいと言うと機会を改めて話したいと答えた。本気だ。遺産を相続したのでその子のために使えると言うと、態度は変化し温かい態度で接する。

時 場所 一週間 夕食から四カ月後

事件

ジェファニーは新居に着く。コレクションの陳列棚になるので三つのうちの一番小さい部屋を選ぶ。

時 場所 ある日

事件

わたしを呼び入れ、全部に名前を付けていると言う。

時 場所 養育係

事件

ジェファニーはミス・ギブズを承認した。

時 場所 二年半

事件

ジェファニーは冷静で自信をつけた。トランクを失ったことを嘆き悲しまない。おもちゃの馬を歩かせる。

時 場所 晴れた朝 庭

事件

持ち物のことは残念だったと慰めると、少しはがっかりしたが賠償金で沢山買える、あれは父のものだと言う。気丈だ、強がらなくてもいいと励ます。中国のものが好きだ。前向きに生きなくてはと言う。

10 3

時 場所 家

事件

大切に思う気持ちは強くなった、彼女をほったらかしにしようと計画している。

時 場所 学校の休暇 ロンドン

事件

帰って来られないかも知れない。長く不在にする。ジェニファーはわたしの不在に気がつかない。

時 場所 去年の秋 サマセット州コリング

事件

気の滅入るような犯罪が起きた。証拠を収集するのは容易ではない。この事件は普通の人々が想像ができる程度に恐ろしい犯罪だ。警部に、力量のある人、任務を遂行することとがとても大切だと話す。

10 4

時 場所 昨年度 王立地理学会 H・L・モーティマーの講演 “ナチズムはキリスト教に脅威を与えるか”

事件

聞きに行った。疲れていて議論についていけない。活発な議論になったが傍観した。ムアリー参事会員は心配事の源泉は極東にある、上海にある。毒が世界を覆うなど広がっていると言う。私は犯罪の調査をしてきた。犯罪や悪が広がるのを食い止めようとした。限られた活動範囲内でだけ活動したと言った。

時 場所 ドレイコート of the 結始式

事件

サラ・ヘミングズと出会った。

11 1

時 場所 一年以上前 教会

事件

サラ・ヘミングズはサー・ヤシル・メドハハーストと結婚し一緒に入ってきた。サラは彼の方がずっと年上だからみんなショックを受けていると言う。遊びに来てと誘う。一週間後に極東に向けて出発する。

時 場所 その夜遅く ホテル披露宴会場 テラス

事件

サラは手すりにもたれて庭を眺めている。男性は女婿の兄として謝る。サラはクリストフ

アーは自分で叱りつけることができると言う。私は数年前のあの夜の事を考えていた。サー・セシルのパーティーの日、彼に会った時に考えていたのか聞くと会った時素敵と思った。もっと後のことだと答える。また戦争になると誰かが言った。これまでも増してセシルが必要になると言う。わたしを見た時から一目惚れだったと言っていた。

時 場所 池のほとり

事件

何か月も向こうに行くのはこのためかと聞くと答が分かっているはずだと答える。

時 場所 何年も前 チャリングワース・クラブ

事件

初めて彼女の姿を見た時からどこかでこの瞬間を待っていたような気がする。セシルはよく知っている、状況を整理するのを助けることができている、行くことにしたと言う。いずれ上海に戻ろうと思っていた。ある問題を解決するために。セシルは上海で事態を解決してしまうかもしれないし、そうでないかも知れないと言う。

1 1 2

時 場所 出航前 ロンドン

事件

サラには会わなかった。上海へ行く時がついにやって来た。サー・セシルは上海で成果を上げて解決策はどこにも見えていない。世界中で緊張は高まり続けている。ジェファニーは買い物に出かけた。わたしの計画もミス・ギブズと話しあったことも知らない。

時 場所 客間

事件

この件がいかにか大切に、何年も関わってきた問題だ。不在はジェファニーに困った結果をもたらす。世界中で混乱が大きくなってきている、行かなくてはならない。

時 場所 二年前 冬の日 聖マーガレット

事件

初めて彼女を訪ねた。ジェニファーは元気だ。行ってしまうだけで落胆すると考える理由もない。集団でいじめたりしないか聞くと少しからかわれることはあるが、みんないい人だと答える。

時 場所 二十分

事件

箱を渡す。プレスレット、銀のベルを取り出し、ありがとうと礼を言う。全世界が壊れてしまったような気になる。君は壊れたかけらをつなぎあわせるといいうすばらしい努力をしていると言う。

時 場所 二年前のあの冬の午後

事件

彼女なら言おうとすることをすべてきちんと理解してくれる。

PART IV

1937年9月20日

上海、キャセイ・ホテル

12

時 場所 上海 三週間

事件

いらいらしている。イギリス、中国、フランス、アメリカ、日本の人々が人の視界をさえぎる習慣は上海の租界の中で独自に出来上がった。歓迎式典の係のグレイスはあなたの両親は何年もの囚われの身から帰るのを歓迎すると言う。銀髪の女性は来てくれてどれほどほっとしているかと言う。

時 場所 雷鳴のような爆発音

事件

若い男はここに落ちる心配はないと言う。

時 場所 運河 平底荷舟

事件

船を見続けた。右手五十メートルで戦争が行われている。

時 場所 二週間

事件

正直に自分のことを恥じていると思われる人は一人もいない。上海のエリートは中国人が戦禍にあっているのを蔑みの目で見ている。

時 場所 フロアショー

事件

サラが腕を引っ張った。セシルがあそこにいると言う。到着以来たのは初めてだ。二人ここにきて一年楽しく過ごせたか聞いた。

時 場所 三週間

事件

サラと何度か会った。ここにすっかり落ち着いた。どこにも行かない。誰かが救い出しに来てくれない限りと答えた。あの一言が蘇ってくる。

13

時 場所 昨日の午後の大半 ボートハウス 三体の遺体 南京路と江西路の角

事件

一人で調査した。

時 場所 クラブ ホテル

事件

クラブに足を向けホテルに帰るつもりで階段を上り、通りに出た。ロシア人ドアマンがサー・セシルとレディ・メドハーストがここを通りかかったと告げる。

時 場所 ラッキー・チャンス・ハウス

事件

サー・セシルはルーレットを見つめて座っている。ゲームに熱中している。サラは頬杖をついて目を半ば閉じていた。何してると聞くので、通りかかった、二、三回行ったことを耳にした言う。事件が解明できないのかと尋ねる。解明はまだと答える。この犯罪と両親のことは重要な関係があると言うと中国人の工場労働時で関係はないと折刺する。

よくここへ来るのか聞くとセシルは立派で派手な所が好きじゃない、誰かが世話をしなければと言う。セシルは多少とも事態を收拾しようとしてこの町に来たが、ここまで来ては手に負えないと言う。サラはわたしにボリスを探してきてもらおうと言う。サー・セシルを腕と肩で支える。

時 場所 メトロポール・ホテル

事件

サー・セシルを椅子に降ろす。彼は二人一緒を見たら娼婦と思う、借金がかさんできた、取り戻すと言う。

時 場所 寝室

事件

サラはほほ笑んで彼につづいて部屋に入った。なにかひっかるものがあった。

時 場所 五分

事件

サラはこんなことになっているとは思ってなかっただろうと言う。こういうことはしょっちゅうある、セシルは素敵な人、愛していると言う。

時 場所 三週間前 バレス・ホテル

事件

サラは急いでどこかへ行くつもりはない。誰かが救い出しにでも来てくれない限りと言う。

PART V

1937年9月29日

上海 キャセイ・ホテル

14 1

時 場所 今朝 イギリス領事館

事件

マクドナルドは準備していたが、わたしの方はそうではなかった。

時 場所 四週間前 パレス・ホテル

事件

マクドナルドに彼の役目を決めさせた。

時 場所 領事館 三F ラウンジ

事件

市参事会のグレイスンはどのような事件を解決したかを話してほしいと言う。事件の複雑な様相の大部分が解明されてもいないのに時期尚早だと思った。

142

時 場所 着いて三日目か四日目 フランス租界にあるホテル

事件

聖ダNSTAN校の同級生モーガンに卒業以来会った。彼はオックスフォード大を卒業し香港に来た。ジャーデンマセソン社で地位を確保し十一年前上海に来た。運転手で苦勞していた。顔に憂鬱な影を見、学校時代の不幸で寂しい少年が蘇ってきた。

時 場所 彼の車

事件

後部座席に並んで座った。君をずっと待っていた、みじめで一人でいるのは好きで、組めば二人組になったと言う。

時 場所 何分か

事件

彼の目に白い涙がにじんでいるのに気がついた。

時 場所 繁華街

事件

通り抜けた。アキラには出会わない。

時 場所 大きな屋敷の敷地内

事件

運転手は車を停めた。

時 場所 玄関ホール

事件

中国の美術のことは分からないがかなり立派なものだ。

時 場所 広くて暖かい部屋

事件

家族のお祝いの場を邪魔した。

時 場所 テーブル 食べ物で一杯 人 九人中国人

事件

部屋のものに注意がひかれた。

時 場所 この部屋の奥半分=私の上海の玄関

事件

立ちつくしていた。わが家の階段があった所だ。古い記憶が蘇って来た。ぐるりと歩く。どこにカウチが置いてあったか？

時 場所 リン家

事件

人々はわたしのことを優しい笑みを浮かべて見つめていた。リンはここに帰ってきて懐かしいでしょうと言う。中国料理を好きかどうか分からなかったので、近所のイギリス人からコックを借りてきたと言う。両親は西太后の勢力から逃れ外国人ばかりの町に逃げて来た。若者は祖父はもてなしを受けないと思っていた。祖母は来ることはよいと思っていた。祖母はこの家は今では自分達のさのと信じていた。リンは家の中を案内する。

15

時 場所 リン家 屏風 壁掛け 陶器

事件

建物を歩き回った。家は贅沢になっていた。馴染みのあるものは何もない。リンは父はここで死去し、孫が生まれた。この家を返すことは名誉で特権と思っている。妻という言葉で皿を思い出す。子供の頃のように復元したいでしょうと当時のままに戻すことはない。父は孤独の女の子を引き取った。妹のように思っていた。孤児を引き取ることでジェファニーを考える。これほど分かりあえるとは思わなかったと言う。

時 場所 六才か七才 ジェマフィールド・パーク

事件

母は笑いながら駆け、私は全力で駆けた。母に会ったことがあるのか尋ねると会っていない、尊敬していた、すばらしい方、美しい方だったと答える。

時 場所 一時間

事件

いい状態でリン家と別れた。モーガンのことは気まずい状態になった。

時 場所 車

事件

クン警部は伝説中の人物で、両親の事件を担当し最も尊敬されていたと言うと、クン爺さんか、彼は何も解決できなかったと答える。歩道で寝転がっている、アヘンにふけり栄光を語って金を貰っている。話は途方もないものだ。

時 場所 キャセイ・ホテル

事件

降ろしてくれた。別れは冷やかで一度も会っていない。

時 場所 今朝

事件

マクドナルドにクン警部について尋ねるがモーガンと変わらない答えをする。自分のオフィスが扱うことではない、中国人に命令できない、蒋介石は日本軍ではなく、共産軍を敵にしている。みんな友人で成功してほしいと願っている。助言には一理あったかも知れない、言い逃れしている。

PART VI

1937年10月20日

上海 キャセイ・ホテル

16 1

時 場所 港近く フランス租界 モーニング・ハピネス・イン
事件

安宿は清潔だった。二人の老婆が床板を磨いている。クン警部は骨と皮だけだった。名前と目的を話す。上海警察一の刑事だったと言うと、立派な警官だったと答える。

時 場所 一九十五年春 レストラン ウー・チェン・ルー ルー事件
事件

銃撃事件で三人が死亡し、数人が負傷した。銃撃事件とは関係なかった。数年前の誘拐事件のメンバーが白状した。人質を幽閉していた家の場所はどこか？すべて調べた、怪しいものは見つかなかった。権力ある人が家のひとつの捜査を妨害した。一軒妨害を受けた。あの家だ。あの家に両親が幽閉されていると思う。

時 場所 二十年以上前
事件

覚えていたか？何も思い出せない。

16 2

時 場所 共同租界 夜 八時過ぎ
事件

戻り夕食をとる。メモに四階と五階の間の踊り場に来てほしいとサラからある。

時 場所 ラッキー・チャンス・ハウス
事件

以来三度偶然会った。殆ど言葉は交わさなかった。

時 場所 トニー・ケジック氏の屋敷の晩餐会
事件

大勢人がいる場所だったのでほとんど言葉も交わさなかった。

時 場所 その後二、三日
事件

調査に没頭していた。

時 場所 踊り場
事件

サラは書類も船も全て手配した。ここにはいられないと言う。セシルはお金をすってしまっ
て取り返すまで動かないと言っている。愛そうとしたが手に負えなかった。壊れてしまっ
た。帰国する金がないのでマカオと一緒に行ってくれないかと頼む。わたしは安堵の気落ち
が込み上げてきた。問題は仕事で終えなければならないと言う。そういう考えを捨てなけれ
ばいけないと言う。手遅れにならないうちに行こう、何年も無駄にした。次のチャンスは決

して来ないを考える。それほど簡単にはいかない。ジェニファーのこともある。彼女と友達になれる。三人家族のようになる。スーツケース一つだけの荷物を作れ、明日三時半迎えをやるという。行くところについて行くと答える。

17 1

時 場所 翌朝

事件

重荷が取り払われたようだ。数日間に予定していた仕事をできるだけ片付ける。

時 場所 二時過ぎ テーブル 昼食

事件

調査するうち、怠慢、腐敗が明らかになった。

時 場所 朝 上海クラブ

事件

三人の名士と会っていた。

時 場所 昼食

事件

ジェニファーと会った時のことを考えていた。彼女はわたしを助けると言った。

時 場所 電話

事件

クン警部からイエ・チェンという男の家の真向かいの家と電話が入る。イエ・チェンは盲目だと言う。

時 場所 階上の自室

事件

荷造りをするため引き上げ、終えた。

時 場所 三時半

事件

中国人男性の運転手が迎えに来た。

17 2

時 場所 キャヤイ・ホテル

事件

若い運転手は走らせる。イエ・チェンは俳優だと言う。

時 場所 小さな店

事件

若い運転手はあの店と言う。少し待ってくれと頼む。紙幣を出すと、怒り、金から身をかわした。

時 場所 奥の部屋

事件

サラは軽いコートに帽子をかぶり、トランク三個を持っている。準備を聞くと順調だ。棧橋まで歩き、通い舟が三キロ川を下り汽船に乗りマカオへ行くと言う。セシルは朝食後例の場所へ行ったと言う。用事を済ませに行かせてほしい。あの若者に聞きたいことがあると言うと、こんな時に誰とも話をしない方がいいと言う。

時 場所 店内

事件

店内に戻り、車めがけて道路を渡った。若者は怒っていなかった。イエ・チェンの家に連れて行ってくれと頼むと、車で送ろうとエンジンをかけた。

時 場所 脇道 角 狭い路地

事件

少年達が水牛を動かそうとしている。若者はバックで戻る。

時 場所 幅の広い道 大きな炸裂音 通行止め

事件

若者は戦闘だ、近くまできているが封鎖されているので回ると言う。

時 場所 銃撃戦の音

事件

人々は安全な所へ逃げる。若者は急勾配の道を上っていった。

時 場所 爆発音

事件

スピードを落とす。戻った方がいい、ここは危険だと言う。車を止め、出て行った。若者を追いかけた。

時 場所 機関銃の発射音

事件

イエ・チェンの家の地図を書いて貰う。若者は坂を下り始め車の方へ向かう。

1 8 1

時 場所 警察署

事件

中国軍服を着た男が何の用だと言う。責任者と会いたいと言う。

時 場所 警察署の地下室 軍の司令部

事件

入って行った。道順の案内人が必要だ、両親が捕らえられていると言う。中尉は人材が不足している。警備が手薄戦闘に耐えられる者は全員前線一行っている、この家には簡単には行けないと言う。

時 場所 掃除用具入れ 金属製はしご

事件

中尉について階段をのぼり外に出る。

時 場所 高い屋上

事件

双眼鏡を見る。立ち昇る煙に焦点を合わせる。

時 場所 三二年 日本と戦争

事件

あの地域のことは知らなかった。貧民層向け住宅だ。強固な密集地域を兵士達が守っている。日本軍には簡単に落とせない。中尉は三二年に日本軍が攻めて来た時、重要だと分かった。人が住んでいて無差別に砲撃できない。西洋の列強が監視している。住宅密集地に沿っている。道路は封鎖している。双眼鏡をのぞき続ける。あの家に両親が幽閉されている。中尉はその家は密集地域を横切ってまっすぐ行けと言った。焼却炉を目印にすればいい。

18 2

時 場所 下

事件

日本兵はいびきをかいている。更に服の上に吐いている。中尉は家は敵の占領地になっているのかも知れないと言う。進まねばならない、案内してくれないかと頼む。中尉は離れてはいけないうる通りにする、ピストルを持って、中立の立ち場と言え、わたしについて来いというライフルを持つ。

19 1

時 場所 数週間前まで何百人の住宅 今廃墟の後

事件

やすやすと次の壁に進む。中尉の後をついて行く。最初楽だったが厄介になった。穴をくぐり抜けた。瓦礫の中に足首まで埋まる。

時 場所 西の焼却炉

事件

中尉は東の焼却炉が次の目印になると言う。いくつかの部屋があった場所に立っている。

時 場所 穴の回りに有刺鉄線

事件

兵士達はひどく緊張している。中尉は日本軍が少し攻めこんだ、数名の日本兵が孤立していて危険だと言う。動くのを延期しようとしているかと尋ねるとまたざるをえないと答える。現在の任務は緊急を要するが、迂回する別の道があるはずだと言うとその道も危険で待つより他にないと答える。

時 場所 機関銃 悲鳴 絶叫 すすり泣き

事件

不気味な音がする。背後の壁に鉄弾が飛んで来た。日本兵は銃撃を始めた。中尉はこれから先に行くのが容易なことでないことが分かっただろうと言う。危険なのは分かるが先に進まなければならない、両親をあの家置いておけない、兵士を連れて行けないかと聞く。

中尉は兵士達が持場を離れたら司令部は無防備になると断る。わたし一人で行く。懐中電灯をポケットに入れた。痲癩を起したことを後悔した。

時 場所 穴の開いた別の壁

事件

声のする方へ歩くと、中尉はそっちに行けないとわたしを連れて行った。道順を指示し、ピストルを隠しておくこと、中立の立場と声明すること、東の焼却炉への道を聞くことを注意して別れる。

19 2

時 場所 北

事件

向かって進む。このあたりの家は被害を受けていない。戦闘の音は聞こえてこない。

時 場所 壁に穴

事件

本来の道から離れていつている。

時 場所 暗くなってる 野良犬増える

事件

懐中電灯を使う。ピストルを抜いた。

時 場所 最初の家

事件

彼らは暗い隅にしゃがんでいる。このような家族に三、四組出会う。

時 場所 広い場所

事件

女性、子供の数が多くなった。老人が二、三人いる。大人の多くが鋏や包丁を持っている。ピストルに手を伸ばした。日本兵は脇腹を下に横たわる。両手両足を縛られている。アキラと分かった。

19 3

時 場所 輪

事件

一人の子供が棒で突ついた。アキラは目を閉じたままだった。軍服の背が破れていた。クリストファーだと言うと額をしかめて唾を吐きかけた。助けてくれるところに連れて行くと言うとブタ野郎と言う。このロープを切らせてくれと言うと、ひもを切ったら殺すと言う。少年に、わたしの友人だ。事件を解決するのを手伝ってくれると説明する。ピストルをかかげると女性は後に下がった。英語を話せると言う老人が、日本兵だ、コン伯母を殺した、人を殺して盗んだと言う。この男が殺したり盗んだりしたのを見たかと言うと首を振った。アキラはおれ達友達だと言う。

時 場所 戸口

事件

たどり着き、次の家へと入って行った。

20 1

時 場所 二つの壁

事件

もう誰も追いかけてこない。二人を隔てていた月日が溶けていく。昔の家に行ってきた。君の家も隅にあった。上着を裂いて包帯にした。治療ができるところへ連れて行く。その前に緊急の仕事がある。アキラは礼を言う。両親が捕らわれている家があった。お前を助ける、お前はおれを助ける。疲れていて十歩歩くと休む。アキラははっきりした方向感覚を持ち続けてくれた。

時 場所 ライフル発射 機関銃応戦

事件

腰を下ろした。日本軍か問うと国民党だ、前線のすぐ近くと答える。

時 場所 遠吠え 絶叫 金切り声 すすり泣き

事件

周囲の破壊はすさまじい。死んだ水牛が倒れている。

時 場所 煉瓦作りのアルコーブ

事件

アキラは日本語を覚えろと言い、ト、モ、ダ、チを教える。突然眠りに落ちた。

20 2

時 場所 夜明け

事件

目覚める。小鳥の声が聞こえ星が見える。アキラは怯え困惑している。子供のころの夢を見ていた。息子の写真をたくした。息子は日本にいる。アキラは心が危険な方に沈み込んでいくのを必死で止めようとしている。

時 場所 機関銃の射撃音

事件

アキラは中国兵はすぐそばにいると言う。

20 3

時 場所 朝通った地域

事件

破壊状況がすさまじくどこへ行ってもいいのかわからない。腐敗している人間の腸に出くわした。アキラは兵士は銃剣を胃に突き刺すと言った。

時 場所 銃声 中国兵二人の死体 死後数時間

事件

どこに向かっているのかと聞くと、たどっているルートに自信を深めた。

時 場所 東の焼却炉はそのまま

事件

炉の上に上った。一人でここを探し出すことはできなかった。アキラはお前はおれを助けるおれはお前を助けると答える。

時 場所 狭い路地 家

事件

もうその家のすぐそばにきているに違いない。

時 場所 表本 二片そろろ

事件

これが読めるかと問うとイエ・チェンだと思おうと答える。

時 場所 家は無傷

事件

ここがその家のはずだ。慎重に考えなければだめだ。何年もたっている。あの家に戦禍が及んでいないなんて、両親がいる家に。何年も前のことだ、両親も何年もたっている。

時 場所 女の子

事件

六才の女の子が近づいて来た。中国語で何か言った。アキラは助けてくれと言っていると言う。女の子は涙を流した。アキラは犬がけがをしたと言っていると言う。女の子は引き戸を開け姿を消した。いよいよだ、中に入らなければ。

2 1 1

時 場所 路地 家

事件

二人一緒になだれこむように入った。両親を捜す。誘拐犯は接近を知って両親を殺害した。三人の死体は中国人で安堵する。老女は顔の片側が黒こげになっている。年長の男の子は倒れていた。女の子は犬の毛をなでていた。アキラは壊れた家具の上にくずおれた。ピストルを上置いて女の子のそばに行き、肩に手をかけた。女の子にすごく勇敢だったと言った。両親を捜し始めた。

時 場所 奥 小さな部屋破壊 広い部屋

事件

調査を始めたのはここからだった。がらくたをのける。アキラは兵隊がやってくると言った。両親はどこにいるんだ。アキラに引っぱられるまま奥に行った。女の子は静かになった。アキラは中国兵にみつかるとはいかない、日本兵なら教えた言葉を使えと言う。食器棚の中に身を隠した。

時 場所 戸口

事件

兵士が現れた。ライフルを発射した。両手を上げた。外国人の民間人と分かった。日本兵

は捜査し始め、アキラが出てきた。恐怖の入り混じったあきらめの表情をし、抵抗しなかった。大尉はイギリス人か尋ねる。両親を捜していた。よく知られた探偵と答える。連れて行く。

2 1 2

時 場所 奥の小部屋

事件

収容され怪我の手当てをして貰った。日本軍は丁重に扱った。兵士達は捕虜なのか客なのか分からない。

時 場所 キャンプ用ベッド 数時間

事件

眠った。数週間の出来事がぐるぐる回った。

時 場所 午後遅く

事件

レコードを売っている店に連れて行ってほしい、早くいかなければならないと言うと、四十代の長谷川大佐は丁寧に自己紹介し、イギリス領事館まで送るよう指示した。イギリスは素晴らしい国と称える。

時 場所 当番兵運転 無蓋軍用車 午後 闇北 焼却炉

事件

日本兵はどうだったか、もう一度会えるか尋ねると大佐はその兵を考えない方がいい、敵に情報を提供したのは確実に捕虜の身から解放して貰うよう取り引きした。やつは裏切り者だと非難した。以前どこかで会ったのか？子供時代なんてずっと遠くのことだ。子供時代が外国の地のようには思えない。今そこから旅立とうとしている。

時 場所 日本軍検問所

事件

日本が中国を侵略したためこんな虐殺が起こって後悔している。日本がイギリスのような偉大な国になろうとしたら必要なことだ。侵略を続けるならさらに不愉快なことがやってくる。中国だけではない、世界全体が戦争に乗り出していく。

2 1 3

時 場所 数時間 イギリス領事館

事件

はっきりとは覚えていない。着くと職員が走って迎えに来た。日本軍の車に乗せられて着いた。部下のマクドナルドに会わせてくれと頼む。

2 1 4

時 場所 客室 髭を剃り熱い風呂に入った。夕方深い眠りに落ちた。

時 場所 翌日の朝 朝食

事件

キャセイ・ホテルから届いた清潔な服に着換えた。マクドナルドを捜す。

時 場所 踊り場

事件

サー・ヤシル、マクドナルドに会う。いなくなった時にはパニックになった。年老いて疲れて見えた。サラから電報が届いた。マカオにいる、元気だ。一緒に行ってくれた方がよかった。サラは人恋しくなっていた。ここでの借りを返して国に帰る。

時 場所 階段を下りてくる足音

事件

グレイスンは無事に帰れてよかったと言う。マクドナルドを捜しに行こうとしていた。あの人はオフィスにいない、あの人の所へ連れて行く。

時 場所 オフィス

事件

足を踏み入れた。マクドナルドの管轄は典礼関係だと言った。

時 場所 昨夜十一時過ぎ フランス租界住宅街 四階か五階建 半時間 書斎

事件

中国秘密警察官二人が付き添う。車で移動した。フィリップおじさんが、私のデスクの椅子に座るのが好きだったと言う。

22

時 場所 何年もの間

事件

おじさんは体重が増え、首が太く頬がたるんでいる。ここまでわたしを追いつめたというわけだ。君に会いたくなってきた。やつらは君がわたしを襲うかもしれないと思った。でもピストルを携帯している。裏切りを重ねてきた。蔣介石の部下につかまって拷問にかけると脅された。同志から守って貰うために中国政府に移らざるをえなかった。大勢の人々がおじさんのせいで命を失っている。

時 場所 一年前

事件

共産党にイエロー・スネークは別のある人物だと思い込ませた。報復の第一陣として殺された。わたしは臆病だ。蔣介石の軍と同じくらいのことをした。何を話せばいいか？両親のこと、どこにいる？お父さんは何年も前に死んだ。父はアヘン貿易から生じる利益のことで会社に抵抗してあんなった。対立して連れ去られた。うなずいた。真相は陳腐なもの、愛人と駆け落ちした。女と香港で一年暮らした。スキャンダルになり、マラッカへ逃げた。シンガポールでチフスにやられ死んだ。刑事達は父が何をしたかどうして分からなかった？薄給で働かされ過ぎのポリ公には何も見つけられない。母は君に話そうと思った。私達は君を守りたかった。君が思っていたようなことを信じこませた。父は母を愛していた。理想化し、荷が重すぎた。ふさわしい人になろうと頑張った。崇拜していた。自分を褒めたかったが、

ないと分かって出て行った。

時 場所 中国の軍歌のレコード

事件

母はどうなった？最近まで閩北に幽閉されていると思っていた。私も賢くなかった。父が失踪した後、軍閥のワン・クーが来た。中国へのアヘン貿易をやめさせる運動に夢中だった。インドのアヘンを中国に輸出することで甚大な利益を得た。何百万人の中国人が中毒に陥った。私はこの運動の中心的人物の一人だった。

時 場所 揚子江 モーガンブルック&バイアット ジャーデン・アセソン

事件

積荷は川上に運ばれ、保護する必要がある。地元の運閥と取引をした。ワン・クーは強大な権力を持ち我々の運動に好意的になった。これから言うことは聞く必要もない。言ってくれ、聞いている。ワン・クーはアヘンの積荷を自分のものにしようとした。母はそのことを知り、彼を叩いた。やった事は簡単に帳消しにできないと思った。外国人の女に侮辱されたのだから。

時 場所 メトロポール・ホテル

事件

行って災難を止めようとしたが無駄だった。母を妻として連れて帰りたかった。守れる人はどこにもいない。君を現場から離れた所へ連れ出した。母は避けられない。君のことはなんとかなる。

この取り決めのあともワン・クーは計画の協力を続けたいと考えていたのか？皮肉を言うな、母を手に入れ満足した。我々が望む通りにやってくれた。やつの貢献が企業はアヘン貿易から手を引く決心をする要因になった。

母はより偉大な目的のために犠牲にされた。連れ去られてから会ったか？おじさんは躊躇する。七年後に一度湖南省を旅行していてやつの要塞で会ったのが唯一だ。何人もいる妻の一人だ。新しい生活にうまく適応していた。きみのことを聞いたので最新情報を伝えた。積疑心に苦しめられて君への愛がなかったら自殺していた。君が経済的に面倒みて貰えるようにした。本当の恩人はワン・クーで、学費もロンドンの社交界で地位を占められたのもワン・クーのおかげ母の犠牲のおかげだ。君のことだけを心配して生きた。ベッドであいつに屈し、客の前で鞭で打たれた。

耳をおおった。どうしてこんなに苦しめると怒る。真実を知ってほしいからだ。私の最も暗い部分を告白しよう。下宿した時からあの人に欲望を感じていた。父が失踪した時、チャンスと思った。ワン・クーは四年前に死んだ。やつの軍隊は蒋介石に解放されせられた。母は今どこにいるか分からない。私が捜し出す。あきらめない。

23 1

時 場所 香港着二日前

事件

ジェニファーがついて来た。彼女にも心配があり、旅はいい影響を与えると思う。

時 場所 上海

事件

貧困、アヘン中毒は減少した。共産主義は数年で達成した。

時 場所 ローズデイル屋敷 三日目

事件

みすばらしく太ってきている。

時 場所 午後 シスター・ベリンダ・ヘイニーのオフィス

事件

シスター・ベリンダは四十代半ばの女性だ。ダイアナ・ロバーツは取り残された外国人の世話をしている関連組織を通じてここにやって来たと言った。彼女は終戦以来精神病者の施設に入れられていた。彼女を訪問する人はいるか聞くと、定期的に訪れてくれる人はいると答える。入居者とうまくやっているか問うと面倒をかけないと答えた。

時 場所 小さな庭園

事件

ダイアナはトランプ遊びをしている。小さく、肩は丸くなっていた。銀髪で丸くまとめてあった。クリストファーと言うと見上げ笑みを浮かべトランプに戻る。パフィンと言うとパフィンあの子には本当に心配させられたと言った。彼を許せるか聞くとうまくやっているらしいが本当はどうか分からないと答える。

2 3 2

時 場所 先月 あの旅のこと

事件

ジェニハーに母は私を愛し続けていた、ちゃんとした暮らしをしてくれるよう望んでいたと語る。あそこで満足している。イギリスに帰っても幸せになれるとは思わなかった。ずっと東洋で暮らして来た。あの地で永眠する方が気に入る。

時 場所 十月の朝 霧

事件

ジェニファーは三十一歳で子供もいなく結婚もしていない。一人だけの生活に落ちついていいと思う。クリストファーがいなかったら孤児だったと言う。やってきたことを立派と思うと言った。

2 3 3

時 場所 ロンドン 一月ほど ケンジントン・パーク

事件

歩きながらジェニーと交わした会話を考えた。彼女はやっとな人生の暗いトンネルから脱け出したと信じてよさそうになってきた。

時 場所 食事

事件

オズボーン夫人はシンガポールで過ごし、サラが仲が良かった。クリストファーのことをいつも話していたと言った。

時 場所 戦後二年 サラの手紙

事件

収容所生活をなんでもないように書いていた。オズボーン夫人はサラとフランス人はお互いに夢中だった。日本軍占領下の収容所で亡くなったと言う。

時 場所 一九四七年五月十八日 手紙

事件

マカオ、香港、シンガポールをすばらしいと書いていた。

2 舞台

1930年頃から1958年頃までの28年間、ロンドンと上海に展開する。第二次世界大戦前の不安定な国際情勢の中にある。

3 人物

(1) アキラ・ヤマシタ

クリストファーの父は大手貿易会社モーガンブルック・アンド・バイアット社に勤めている。イギリスはインドからアヘンを買って中国に輸出し、その資金でインドの線花を買っている。アヘンは中国全体に悲惨と退廃をもたらしている。

バンクス家は上海の社宅に住んでいる。新しい社員が泊りに来ることもある。大きな家庭の奥に小山があり六才の頃はよくアキラと遊んでいた。アキラは隣の家に住んでいた。二人で劇を演じて遊んだ。「充たされざる者」のボリスがこの遊びをしていた。アキラは英語の達人で世智にも長けている。租界の外に何度も出た。その冒険話をする。クリストファーの母は美しく端麗でアキラは特別な畏敬の念を抱いていた。

八才の頃衛生検査官ごっこをした。アキラは日本の業績ばかり繰り返し、民族の優秀さを自慢する。両親は長崎の親戚の家に下宿させ学校に通わせた。日本での生活の方がすべての点ですぐれていると思っている。クリストファーは日本自慢にうんざりし離れるのが待ち遠しかった。

アキラは日本の学校で生徒、教師、親戚から仲間外れにされ、両親は学期の半ばに連れ戻した。クリストファーは彼がいなくて何かと悪ふざけの的になった。アキラ程の親密さはなかった。アキラは戻って来て元の学校に通う。普通に付き合い始めた。十才の時、アキラは家の老いた使用人リン・チェンに関心を持つ。恐怖心を募らせ留守の時、二人で部屋に入りびんを持ち出す。クリストファーは一年前より自信のある人間になっている。空想物語を続ける。何か分からない、水は高価なものと思う。返せないまま四才上の姉に打ち明け返して貰う。クリストファーの父が行方不明になると、アキラは新しい遊びを提案する。クリストファーのお父さんごっこを始める。父を探し助け出す探偵ごっこだ。椅子に縛られている彼を言い出すと、縛られていないと反対する。アキラは見つからなければイギリスへ帰

るのか尋ねる。クリストファーは一度もそのことは浮かばないここで暮らすと言う。

少年時、二人は一緒に過ごす。イギリス人と日本人は、英語をアキラが話すことができ親しくなる。隣同士男同志年齢も同じで気心が知れた仲だ。租界は孤立した狭い土地だ。外国人同士親しくなる。アキラは日本に戻りいじめられたえられなくなり戻る。クリストファーを友達として再確認する。クリストファーはアキラがいなくなり悪ふざけの対象になる。アキラが戻ると二人は元通りの仲になる。同じような境遇で育ち成長する。戦場でアキラは両手両足を縛られ横たわっていた。クリストファーはアキラに気づき助け出す。アキラは初め反抗するがクリストファーの熱意に友達だと言う。お互い助け合うことを誓う。

アキラは五才の息子のことに触れる。再会した二人は、昔友達だったころの年齢の息子を介してつながる。

アキラはイエ・チェンの家に案内する。長谷川大佐は、アキラは敵に情報を提供した。開放してもらおううら取り引きした、卑怯な裏切り者だといった。戦場でアキラは生きのびようとした。

(2) チェンドレン大佐

父の上司ハロルド・アンダーソンは友人のように接し、叔父のような役割を果たす。チェンバレン大佐に十才のクリストファーをイギリスまで連れて行かせる。

イギリス行きを渋るクリストファーを説得する。自由が待っている、船に乗れば楽しいことが一杯あると言う。

自分は英雄か後見人と思っている。いつか戻ってくる。上海は八九年いけば沢山だという。

(3) ジェームズ・オズボーン

五年生の時、クロスカントリーの記録係をジェームズ・オズボーンと組んでやる。『充たされざる者』のライダーがこれと同じことをしていた。その時、彼がコネに恵まれていることについて尋ねた。自分は両親がいた一事実を告げた。

一九二三年夏、ケンブリッジ大を卒業すると叔母がシュロップシャーに戻ってほしいと願っていたが、未練は首都ロンドンにあると、ケンジントンに小さなフラットを借りた。オズボーンは出版界に入ろうとしている。上流階級の人々とあちこちでつながっている。コネに恵まれている。今夜のパーティーに誘う。ロンドンにいたから叔母と知り合い、縁のなかったパーティーにも参加できる。

パーティーでは臆病風に吹かれて身動きが取れず、オズボーンの側から離れられない。これをきっかけに、様々なパーティーに道が開かれる。学校時代の友達を介して交際が広がっていく。彼はサラ、ジェニファーを紹介する。

(4) サラ・ヘミングズ

オズボーンの招待でクリストファーはこのパーティーに参加する。サラ・ヘミングズについて彼は説明する。社交の場で敵を作った。聡明で複雑で魅力的だ。有名でなければ尊敬する価値がないと考えている。『充たされざる者』のローラに通う。

指揮者と婚約したがコンサートを大失敗した彼を捨てた。法廷弁護士と失敗し離れた。若

手閣僚と友達でいる。私を無視する。無名の人には問題にしない。

一ヶ月後、マナリング事件で大勝利し、新しい世界からの招待が殺到した。自己紹介をしたサラのテーブルに行く。冷たいさぐるような目つきをし本に視線を移す。事件の件を持ち出すと気のないふりの対応をする。退散した。腹が立ち意気消沈した。社交的な場から仕事に向かう。探偵の本物と贋物の区別をする。進むべき道からそれない。サラにそっけなく扱われ変に感わされない。探偵一筋に生きる決意をする。

三、四年何もなかった。ロジャー・パーカー事件をうまく解決した。悪を浄化し、脇道にそらされなかった。カクテル・パーティーでサラはだれかと話している。あの高慢な態度をとるか、意識して前を通った。視線が私の全身を値踏みし困惑の表情でいた。以来いくつかの難しい事件を解決し、名の売れた探偵になっていった。

ノーフォーク事件は調査中だった。ターナーが夕食に招待したが事件が傾いていると断った。かれはサラが話したがっている、数年来の知り合いと言っていると言った。話したがっていたという話が気になるがターナーの誤解と思う。

スタッドリー・グレインジ事件調査中にサラは姿を見せた。石板の一枚を調べていた時誰かに見られている気がした。サラはここにいると聞いて来た、エマリー家とは親しい友人だ。

四月に事件が起こった時、クリストファーの力を借りなかったことは残念だったというので、興味を刺激された。彼女にイギリスで一番の調査力を持つと称えられる。

クリストファーが有名になり、サラは近づく。そして、メレディス基金の晩餐会に招待されているか尋ねる。されていると言うと、連れて行ってと頼む。パーティーに招待されることにおいて二人の立場は逆転する。同伴したいと言うなら受け入れると言うので、自分の力でどうこうできるものではないと答える。

チャールズ・エマリーの死については謎を解くのに数日かかった。が、満足がいった。サラはエマリー家のためにしたことは本当に素晴らしいと言うとそれほど複雑な事件ではないと答えた。サー・セシルと話してみたいと言った。彼女の来た目的は彼だった。仲良く喋り上に行くのと離れる。彼女はなんてことするの、約束したと怒る。クリストファーはしていないと上がっていった。

戸口で従業員がサラを止めようとし騒ぎ出した。クリストファーは一人ずつ入り一緒に入らなかった。約束をしたかしないかはあるがサラは連れて行って貰えると思っていた。彼は一方的で思いやりのない。

サー・セシル・メドファーストは偉大な政治家で世界情勢に貢献した。主賓だ。サラは彼のほうに歩いていき腕に手をかけ注目を一人占めした。サラは狙い通りに有名人を手に入れた。サラと和解しておくべきか迷った。なにがなんでも相手を見つけて入ろうとしたと言うと私のことを認めていないと非難する。あなたは先ほどの騒ぎを恥ずかしい、認められないと思ったと言う。

有名人と交際すれば価値ある人生が送れると考えていると言うと彼女は傷ついた。両親が生きていたら結婚を考える時期だ。世界に貢献するという人の意味で、有名な男性と言う

のではないと反論する。二人は互いにわび許し合う。

サラは両親がいない。一人で生きる、一人で人生を切り開く。そのために男を選ぶ、世界に貢献する男を探す。

サラはセシルと結婚する。ずっと年上なのでみんな驚いた。彼を素敵と思う。クリストファーを親しい友達と思う。ムッソリーニが出てきたのでまた戦争になると誰かが言った。セシルが必要になる、引退すべきではない、使命を引き受けてくれると思った。

セシルはサラに一目惚れだった。彼は上海で事態を解決してしまうかも知れない、そうではないかもしれないと上海にやってくる。

セシルは上海で成果を上げてても解決策はどこにも見えない、世界中で緊張は高まり続けている。ヨーロッパにいて世界情勢にかかわり成果を上げた。東洋の、疎開上海にきて出る幕はない。年もとっている。

セシルは現状を打開できずゲームに熱中する。多少とも事態を收拾しようとしてこの町にやってきたが手に負えない。することを求めてゲームに走る。二人一緒のところを見られたら娼婦と思われる。負けが込んで借金がかさむ。サラは誰かがセシルの世話をしなくてはいけないと付き添っている。やがて金もなくなり、手立てもなくなり一人マカオへ立つ。クリストファーを誘うが両親を探していてそれどころではない。

セシルはサラがクリストファーを思っているのを知っていたので行ってやってほしかった。救い出してくれる人に期待するがそういう人はいない。

セシルはサラと新天地を切り開こうと上海に来た。が、彼は何もできないままギャンブルに熱中し金を失う。サラはここで生きていけないと悟り、金をかけずに行けるマカオの友達を頼って出ていく。マカオ、香港、シンガポールへ移動した。その都度有名な男を手に入れ愛した。行き詰ると今までのように捨てて取り替えた。次々に相手にする男がサラの支えになる。一人ではいられず、一人ではない。有名な男を外に求め、設置することで生きる。シンガポール日本軍占領下の収容所で死んだ。

(5) ジェニファー

二年前、コーンウォールおきで船の事故が起き、一組の夫婦が溺死した。一人娘は一才になり、カナダで祖母と暮らしている。

ジェニファーはイギリスを恋しがっている。孤児の世話をする慈善団体の財務担当者は引き取り手を探していた。

クリストファーはオズボーンからこの話を聞き引き取ることにした。ジェニファーは家も財産も有り、生き生きしている。クリストファーには叔母の遺言で買った家があり、彼女はここにやって来る。

三つの部屋のうち一番小さい部屋を選ぶ。棚がコレクションの陳列に適切だから。トランクを失ったが嘆き悲しまない。賠償金でたくさん買える。父母を亡くしてからものことは気にしない。

冷静で自信に満ちている。前向きに生きようとしている。聖マーガレット校で少しからか

わわれることはあってもみんないい人と思っている。クリストファーが上海から帰ったら助けてあげると言う。三十一才になる。子供もなく結婚をしていない。一人だけの生活に落ち付いている。クリストファーがいなかったらどうなっていたか、孤独だったお陰で今いる自分がいると言う。

(6) リン

バンクス家を買って住んだのはリンだ。クリストファーはこの家を訪ね歓迎される。孤児になった自分が孤児を引き取った話をすると、リンは父が女の子を引き取った。妹のように思っていた。死んだ時に悲しんだと話す。

(7) クリストファー・バンクス

八才までは隣家のアキラと親しく遊ぶ。平穏な生活は八才の時の父の行方不明で壊れる。十才でイギリスに着き、シャロツブシヤアの叔母の家に行く。小さな屋根裏部屋に住む。アキラと作り上げた探偵ごっこのシナリオを演じて遊んだ。

寄宿学校聖ダNSTAN校に入る。変わり者が気になった。独自のしぐさをやってのけた。三年生で一連の盗難事件があったが自制した。十四才の誕生日、友人二人が探偵になるらしい、ホームズになりたがっていると野心を知られ拡大鏡をプレゼントされた。二、三年後グハープがホームズというには背が低すぎるとなりたがっていることを指摘した。

学校を出たら探偵になると思う。アキラとの探偵ごっこ、両親を探したこと、シャーロック・ホームズを読んだことで憧れていた。

ケンブリッジ大学を卒業すると探偵を目指した。いくつかの大きな事件を手がけ解決し名声を得た。イギリスで名探偵として知識と経験を身につけ上海へ向かう。そこで行方不明になった両親を探そうとする。手がかりを頼りにし、解決しようと励む。居場所を目指し戦場にも乗り込む。

サラが愛をほのめかしても取り合わない。求めていても手を貸さない。サラはクリストファーに気を寄せる。会う人ごとに彼の魅力を語る。それは彼の耳に入る。が、サラと距離を置く。探偵をしてその仕事に没頭する。愛が生まれそうな、実りそうな男女は、男の拒否で破綻する。作者は、恋に生きそうな、結婚しそうな男を、仕事のために恋に結婚に向かわせないように作品に度々描く。作品に結婚する男はいない。

イギリス国内で事件を解決することと、租界地上海、戦闘の上海で両親を探し出そうとするのでは勝手が違い過ぎる。しかし、クリストファーは実状にかかわりなく愛する両親を懸命に探す。どこかにはいるものと思っ

て捜す。最後に行きついたイエ・チェンの家には誰もいない。苦勞し尽力し、あきらめることなく必死に捜し続ける。本物の探偵として活動する。が、両親の行方は分からない。

そこにフィリップおじさんが現れ、実状を語る。父は愛人と駆け落ちし、香港で一緒に暮らした。スキャンダルになった。マラッカへ逃げ、シンガポールでチフスにかかり死んだ。母は、ワン・クーの妾になる。一度会ったが行方は分からない。クリストファーは再び母を探す。精神病患者の施設にいた。面会しパフィーという

一般的な捜索は、人の動向を追う。いつどこにいたか一つ一つ追いかける。生きている以上必ず見つけられる。その人の痕跡を追っていけば辿りつける。

破綻した人は、自らは何も残さない。自分のことは不明なままだ。不審に思われ確認される。施設に行けば思ってることができる。

(8) 父と母

母は山東省出身を理由に召し使いを追い出すという検査官に猛反発する。理不尽なことは許さない。

アヘンを商売にする会社で働くことを恥と思う。夫の会社に不満を抱く。反アヘン運動の中心人物だ。フィリップおじさんと連携する。悪と考える活動をしている会社の恩恵を受けていることは苦しみだ。

筋を通して生き続ける。ワン・クーに従う。クリストファーのことだけを考えて、言いになる。矛盾の中、主張を貫き通す。自分をおいつめついつぶれる。

父はその会社で働き生活を維持する。母は許せない、共犯者になっていると思う。おぞましい富の恩恵を受けどうして良心を安らかに保てるかと言う。

父は単純なことではない、仕事をして生計を立てていると思う。二人は喧嘩して何日も何週間も沈黙し続ける。父の自慢を母は称えない。

父は母のおかげで立派になれたと言う。クリストファーに話すのは話す相手がいないからだ。理解できないクリストファーに話す。

母は、グループのリーダーで、フィリップおじさんがおり、話し相手にこと欠かない。息子にそういう話をする必要はない。

父は母に頭が上がらない。母を愛し過ぎ、理想化した。ふさわしい人になろうと頑張ったができなかった。つぶれた。愛人に走り、香港に逃げた。スキャンダルに見舞われチフスにかかって死んだ。

母は反アヘン運動をつづけ、企業がアヘン貿易から手を引く決心をする要因を作った。ワン・クーを殴り、愛人にされた。クリストファーの生活費、学費、身分の保証をワン・クーに要求し、通した。母は強い人だった。真情を貫き、あつれきに発狂した。

二人は『充たされざる者』のホフマンとクリスティーナに相応する。

(9) 孤児 (孤児 両親を失った幼児。身寄りのない子。みなしご。孤子。「戦災——」『広辞苑』)

クリストファーは八才で父が行方不明になり母もいなくなり、十才でイギリスに帰る。八才までは両親といた。親しい友人もいた。その他の人にも囲まれ幸せに過ごした。自己確立ができた。両親を失い淋しさに耐えた。耐えて自ら生きていくことができた。

クリストファーは探偵を目指す。両親を自力で探し出そうとする。父の死を知り、母の生存に到る。探偵の自覚を持ち、探偵をして生き両親の生死を知る。探偵に集中しサラとの交際サラの思いを切り捨てる。

ジェファニーは十才で両親を失う。カナダの伯母に迎えられ、イギリスに行きたいとクリ

スファアの養女になる。孤児クリストファーが孤児ジェニファーを引き取る。彼女は両親の死を冷静に受け入れる。

部屋を自分の考えで決める。対面して養育費を決める。父母を亡くし、亡くしたものにはこだわらない。

クリストファーを思いやる。助けると言う。上海に同行する。援助に素直に感謝する。人の生活を維持していくことができる。自分のいる位置を知り、どうふるまうかを理解している。孤児になったことをそのまま受け入れ自分の人生を生きていく。

二人は十才で孤児になり、その後それぞれの道を歩む。孤児を受容し前に進むことができる。孤児になっても自立できる年齢が十才だと言っているのかもしれない。ちなみに三つ子の魂百までという諺もある。『源氏物語』の光源氏も母が死んだのは三才の時だ。十才ではある程度明瞭に自分の道を歩めるといえるのかも知れない。

サラ・ヘミングズは話していて、ずっと両親がいなかったと話した。母との確執があり母一般を拒絶していた。何才であったか分からない。幼児のころから孤児だったのだろう。

有名な指揮者と婚約する。が、コンサートで大失敗すると婚約指輪を投げつける。法廷弁護士、若手閣僚とも別れた。

平凡な男は眼中にいない。貢献する人、世界に貢献する人と人生を歩もうとする。有名というのではなく、能力のある人を相手にすると言う。だから能力が発揮されなくなると価値がなくなり別れる。有名な人といふことを持続しようとする。そのため能力を持ち続けている時だけの関係になる。それは難しいから持続せず別れて次の男を求める。

サラは物心つかないうちに孤児になる。自己確立ができず、そのまま成長する。自分が自分であるために、能力ある男といふことを必要とする。空白を価値ある形あるもので埋めようとする。

男が失敗すれば、精彩を欠くようになれば彼女はその男を捨て次の男を手に入れる。これを繰り返し、常に、いつも能力のある男といなければならなくなる。次々に男を変え、いるところを変える。上海、マカオ、香港へ移動し、シンガポールの収容所でなくなる。

